

令和5年度

三鷹ネットワーク大学「民学産公」協働研究事業

協同労働プラットフォーム三鷹 の実装化へ

- 労働者協同組合法施行での協同労働を軸とする、
就労創出・研究・学習・人財開発のネットワークづくり -

一般社団法人 協同総合研究所

目次

1, 研究事業の目的	P.3
2, 申請団体のプロフィール	P.3
3, 参加団体のプロフィール	P.3~P.4
4, 協働研究事業の期間	P.4
5, 協働研究事業の背景	
(1) 労働者協同組合法が施行され、多様な労働者協同組合が生まれ、協同労働の働き方が広がりを見せている。	
(2) 協同労働の働き方をする方々が日本には約10万人いるといわれている。	
(3) 周知・実装化とともに、協同労働で立ち上げ労働者協同組合を志向する「野の」の継続・発展を重視	
	P.4~P.6
6, 協働研究事業の成果とその実装化へ	
(1) 第2回(2023年度)「はたらくこと再発見講座の開催」	P.7~P.14
(2) 2022年度「はたらくこと再発見講座」受講生との後継組織会議	P.14
(3) 「野の」の周知・発展に資する学習会づくり	
1) 1周年記念イベント	
2) 環境活動×協同労働—未来をつくる生き方・働き方	
	P.14~P.19
(4) みたかむさしの協同コミュニティづくりネットワーク設立集会	
1) 5度にわたる準備会の開催	
2) 集会当日の概要(タイムスケジュール・設立趣意書・行動計画)	
3) 集会当日に出された意見	
	P.19~P.25
7, 結果	P.25
8, みたかむさしの協同コミュニティづくりネットワークの存在意義と今後	P.25~P.26

1, 研究事業の目的

労働者協同組合法が2022年10月施行され、2024年2月8日現在、72の労働者協同組合が生まれている。しかし三鷹市内には労働者協同組合法人はない。

令和3~4年度まちづくり研究員として「自治が息づく三鷹で協同労働を実装化する - 労働者協同組合法制定・施行を契機に」をテーマに研究した。また令和4年度は本事業を受託し、「持続可能で活力ある三鷹づくりの居場所・就労の場を『まちづくり講座』を通じてつくる - 労働者協同組合法施行を目前に、協同労働を軸にして - 」をテーマに深めた。そのなかで、協同労働で立ち上げた「量り売りとまちの台所『野の』」やまちづくり講座を通じて、「野の」のシェアキッチン事業の1つの「すみかふえ」が生まれるなどの実装化がされた。

まちづくり研究員の論文では、今後の戦略として

- 1、地域の多様な人と出会い、協同労働への共感・理解を広げる。
- 2、1人ひとりが意見を出し合える学習運動のコミュニティを継続する。
- 3、協同労働を軸に、仕事おこしの事実をつくり、継続し、広げていく
- 4、個人・団体が連帯してつくる「三鷹市協同労働プラットフォーム（仮）の設立」
をあげた。

このうち「4、三鷹市協同労働プラットフォーム（仮）」設立に焦点をおき、そのプラットフォームをつくるプロセスにおいて、講座や集会等での新たな出会いをつくり、協同労働団体の継続・発展にも関わり、仲間をつくりプロセスを大切にして、ネットワークをつくることを目的とした。

2, 申請団体のプロフィール

一般社団法人 協同総合研究所

1991年開設。所在地は東京都豊島区東池袋。

労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会（現在、26,000人の就労者、372億の年間事業高【会員合計】）が母体となり設立。現在、約500名が会員となっている（研究者と実践者）。理事長は明治大学の太田研道教授。「協同を通じて、希望ある未来を探求する」ことを目指し、「協同社会のデザイン」をテーマに研究活動を進めている。「協同」を軸として、労働者協同組合、協同労働、社会的連帯経済、仕事おこし、地域づくり等を研究している。研究者と実践者の融合・連携を大切にして運営している。

協同総合研究所ホームページ：<https://jicr.roukyou.gr.jp/>

3, 参加団体のプロフィール

■量り売りとまちの台所

三鷹市・武蔵野市・西東京市の市民8人が集まり、2022年5月30日に合同会社設立。同年10月に下連雀3丁目のコインランドリーの隣のカフェスペースでオープン。伝統的

で調味料・食材・日用品等の量り売り、曜日で変わるシェアキッチン事業、暮らしに関わるイベントを開催している。「野の憲章」では、「量り売りを提案します」「働き方を考えます」「地域のつながりを大切にします」「食の地産地消をめざします」「ごみ問題を向き合います」「自然となかで生まれた手仕事を大切にします」の6つを大切にしている。将来的には、出資額にかかわらず平等に経営に参画し、労働に携わる運営をする労働者協同組合への移行を掲げている。

量り売りとまちの台所野のホームページ <https://nonohakariuri.wixsite.com/home>

■文化学習協同ネットワーク

1974年開設。本部所在地は東京都三鷹市（事業所は武蔵野・西東京・練馬・相模原・中野等）1974年に父母運営の塾づくり運動から始める。中学生のための「勉強会」をはじめ、1980年に（有）多摩地域教育研究所として法人登記。その後1999年に「非営利活動法人文化学習協同ネットワーク」として登記。現在は、塾以外に不登校の居場所づくり、コミュニティベーカリー風のすみか、若者就労支援事業（地域若者サポートステーション他）、困窮家庭の子ども若者支援等を行っている。競争から共同の教育を目指し、多様な体験プログラムも実施しながら、子ども・若者の学ぶことと働くことを協同で探求することを推進している。

文化学習協同ネットワークホームページ <https://www.npobunka.net/>

■日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会 センター事業団 東京三多摩山梨事業本部

1987年に日本のモデル労働者協同組合として設立された。現在、10,000人強の就労者、220億円の年間事業高で、日本最大の労働者協同組合である。「共に生きる、共に働く」ことを大切にして、全国各地で労働者協同組合運動、協同労働運動を推進している。センター事業団は全国20の地方本部（事業本部）があり、東京三多摩山梨事業本部は東京多摩地域と山梨県を担当している。三鷹市内にはセンター事業団の事業所はない。

センター事業団 東京三多摩山梨事業本部ホームページ

https://santama.roukyou.gr.jp/?doing_wp_cron=1674798938.3540248870849609375000

4. 協働研究事業の期間

2023年6月15日～2024年2月16日

5. 協働研究事業の背景

(1) 労働者協同組合法が施行され、多様な労働者協同組合が生まれ、協同労働の働き方が広がりを見せている。

現在、72団体が労働者協同組合法人となり、全国各地で事業を展開している。事業内容

としては、福祉（子ども・高齢者・障がい者・生活困窮者他）、生活総合事業（暮らしに根ざした身の回りの仕事）、歯医者、ITコンサル、キャンプ場運営、第1次産業とその6次産業化、フリースクール他。立ち上げた方々は、地域課題を仲間とともに解決したい方、民主的な運営をしていきたい方、副業（複業）として他の生業をもちながら気の合う仲間と立ち上げた方、退職したあと年金+αで仕事場をつくりたい人、一般市場で自分にあった働く場がない人、自治体・町内会が母体となり立ち上がった等、多様な背景の方々が立ち上げている。さらに労働者協同組合法人とともに、NPO法人や株式会社など他法人も取得しながらハイブリッドで運用する団体も生まれている。

新規設立団体以外にも、労働者協同組合を目指して労働者協同組合法をつくったワーカーズコープやワーカーズコレクティブの団体がNPO法人や企業組合法人から移行して労働者協同組合法人になったところもある。

このように人財派遣業以外でしたらどのような業種でも可能で、3人から立ち上げることができる労働者協同組合法人が、少しずつではあるが広がり始めている。



全国の労働者協同組合法人設立状況（2024年2月8日）

(2) 協同労働の働き方をする方々が日本には約10万人いるといわれている。

労働者協同組合の実践を進めるなかで、私たちの働き方を追求するなかで、1997年に「協同労働」を実践上で使われ始めた。協同労働は「一人ひとりが主人公となる事業体をつくり、生活と地域の必要・困難を、働くことにつなげ、みんなで出資し、民主的に経営し、責任を分かちあう」と定義（日本労協連協同労働の協同組合原則）しているが、このような働き方をする方は、日本に10万人いるといわれている。

そのなかには、労働者協同組合（ワーカーズコープ、ワーカーズコレクティブ）以外に

も、障がい当事者団体や、農協女性部等での直売所の運営、中四国・九州・沖縄になる共同売店等である。

働く人が出資し、必要に応じて地域の方々も出資し、必要なサービスをつくる、自分たちで就労の場をつくることは、労働者協同組合法人だけが唯一無二の存在ではない。協同労働という働き方を広げることが、働き方が注目される昨今、より多様な方々が参加できるようになると考えている。



協同労働の働き方



NHK クローズアップ現代で紹介された1カット

(3) 周知・実装化とともに、協同労働で立ち上げ労働者協同組合を志向する「野の」の継続・発展を重視

昨年度の成果報告会では「スタートアップではなく、スモールビジネスなので、地道に成果を出すことを目指してください」「野菜の量り売り「野の」は、シェアキッチンの評判も良く市内でも話題に上がっている。事業として継続できるかが注目されている」とのコメントがあった。それをヒントに協同労働で立ち上げ、労働者協同組合を志向する「野の」の継続・発展が協同労働を推進するネットワークをつくるプロセスに不可欠と考えて、「野の」の継続・発展に資する取り組みも進めてきた。



「野の」のチラシ



「すみかふえ」のチラシ



野のとすみかふえの看板

6. 協働研究事業の成果とその実装化へ

成果の「協働労働プラットフォーム三鷹（仮）」の設立に向け、4つの行動計画を立てた。

- 地域の多様な人と出会い、協働労働への共感・理解を広げる

【第2回まちづくり講座の開催】

- 1人ひとりが意見を出し合える学習運動のコミュニティを継続する

第1回まちづくり講座参加者による継続的な学びの場【昨年度から計7回の開催】

- 協働労働を軸に、仕事おこしの事実をつくり、継続し、広げていく

【「野の」の継続的運営と発展】

- 設立に向けて、この間知り合った方々との準備会を立ち上げ、設立集会を開催する

【2/4のネットワーク設立集会、5度にわたる準備会】

(1) 第2回(2023年度)「はたらくこと再発見講座の開催」

9月から6回に渡り講座を開講してきた。今年もネットワーク大学事務局にお願いし、メルマガの配信や三鷹駅含めてのチラシの配架等をしていただいた。

受講者は12名。その他講師を務めていただいた方も含めて、20名が参加することになった。三鷹市・武蔵野市在住・在勤者が多いなか、小金井市や杉並区からの参加者もいた。この講座終了後、2月4日のみたかむさしの協働コミュニティづくりネットワーク設立集会で、講座での学びを参加者3人から報告していただいた。

回	内容	備考
第1回 【9/13】	自己紹介、協働労働の働き方	ガイダンス相良（事務局）
第2回 【9/27】	『医師中村哲の仕事・働くということ』（日本社会連帯機構配給）上映とはたらくことを考える	視聴後、グループに分かれて議論
第3回 【10/11】	地域のつながりで仕事をつくる	<u>DTP ユースラボ・風のすみか</u>
第4回 【10/25】	協働労働で仕事をつくる①	<u>ワーカーズコープ東京三多摩山梨事業本部</u>
第5回 【11/15】	協働労働で仕事をつくる②	量り売りとまちの台所「野の」
第6回 【11/29】	協働労働による仕事おこしワークショップ、まとめ	<u>☑参加者全員で</u>

2023年度「働くこと再発見」講座カリキュラム

（いずれも18時から。第1・2・6回ネット大学、第3・4回文化学習協同ネットワー

ク、第5回量り売りとまちの台所「野の」)



2023 年度「働くこと再発見講座」チラシ

第1回・第2回

第1回目、第2回目は各参加者の講座への動機を中心に交流した。その後アフガニスタンで用水路を引いた中村哲医師の実践から、「はたらくこと」と「地域づくり」について参加者同士で議論した。

【参加者の動機（第1回・第2回講座）】

- 『協同労働』の考え方を踏襲した働き方を模索したかった為に参加しました。
- はたらくこと、仕事がいつしか賃労働になっていることに気づきました。お金を稼ぐことが目的ではない。かといって、莫大な資産を持つ人が慈善事業のようなことをやるのも腑に落ちません。「世のため、人のために」なるようにことを稼業にしたいということでもありません。はたらくこと、仕事を狭い観念でしか考えていない残念な自分がいました。はたらくこと、仕事の可能性を考えたくて、講座に参加しました。
- 協同労働という働き方や経営スタイルを知りたいと思ったからです。

■自発的な労働（人を侵さず、人に侵されず共同（協同）してはたらく）を行うにはどう
いう方法があるか関心があったため。

■働くことは収入を得ること以外の目的で捉えていいことに気づき、自分は何を目的に
したいのかを掴みたいと思っているのに、私は自分一人ではどうしたら良いか分からず少し
でもヒントが欲しいと思い参加。

■主婦生活の中でもう一度世の中での活動をしたいという思いと、家庭との両立には悩ん
でいる中で起業も一つの視野に入れている中での選択肢の一つとして検討できないかとい
う想いで参加させていただいています。起業セミナーにも参加したこともありますが、
「小売」や「飲食」中心の内容でじっくりくるところもなく、協同労働の仕組みについて
勉強させていただきたい。



第1回目の自己紹介と受講動機交流 映画「医師中村哲のはたらくということ」上映

第3回

第3回は、生きづらさを抱える若者が中心となり立ち上げた「コミュニティベーカリー
風のすみか」とチラシや印刷物の編集作業をする「DTPユースラボ」の実践を報告。地
域のつながりから仕事をどのように起こしてきたのか。多様な方々と働くなかでの「働く
ことの意味」を議論する場となった。

【第3回目講座感想】

■風のすみか立ち上げのお話や運営状況（事業利益、補助金、寄付金で運営）のコトはと
ても参考になりました。また当事者の皆さんの声（誰の為のどの部分の仕事かを明確にし
て働いていること）も貴重な話だと思いました。

■立ち上げから今まで、根気と深い愛情と理解と本気があり、よくぞここまで来たと思
いました。地域を巻き込むって、かなり大変だっただろう。若者たちの「小さな成功体験の
積み重ねが大切」というまとめの言葉が印象的。落合さんも、体験を詳しくお話くださ
り、ありがたかった。ああして発表できるのは、もう、すっかり過去の自分だからだろ
う。とはいえ、「頼れる所が欲しくて繋がりを手放さないようにしたいと思っている」の
言葉が愛おしいです。

DTPユースラボでは色々な働き方ができ、時代の最先端だと感じた。東京都ソーシャルファームの事業として認証され、地道な努力が認められた。補助率は段階的に下がっていくので手放しでは喜ばず、5年後以降には、もっと手厚い施策が生み出される社会の理解が欲しい。

■「風のすみか」の立ち上げでは「徹底的に人に頼った」と言われていたのが印象的でした。頼れる人が多々あらわれるまでの発信量と継続があったのだとおもいますが、正しいこと（筋）を通すだけの信念を持たれていた結果が事業として継続しているのだと感じました。私の浅い考えですが、協同労働では人に役立つことをしていくのは当然ですが、最初は一人の労働でも、そこに（正しい）意義と継続（信念）があれば人は集まり、協同の労働となり、より広がった事業（労働）となっていくのかと感じています。

■「失敗を恐れない場所」と強調されていました。社会復帰プログラムであるので仕方ないところもありますが、社会とのギャップもありそうなので営利目的の視点も取り入れていかないのか？と思いました。若者世代の居場所作りについて真剣に活動されておられますが、居場所を探しているのは若者だけではなく孤独な主婦も、元気な高齢者もいるので、何かできないかなあと思いました。

■DTPユースラボ中村さんの「応援してくれている人たちからの仕事を、その人たちのためにしたい」との言葉を聞いて、「よい仕事ってそういうことなのかも」と感じました。自分の仕事が、どんな人たちのどんなことの役に立っているのかを実感しながら働く。そんなふうに働けたら「時間を売る仕事」ではなく「よい仕事」をしていることになるのではないかと思います。働き方を自分に合わせていくというのも「よい仕事」につながっていくのかなと思いました。DTPユースラボの働き方は羨ましく感じたし、自分がどう働きたいかを出発点に働く場を探していきたいと思いますが、じゃあ私はどう働きたいの？何が出来るの？自分で自分が分からない事が一番の問題だと改めて突き付けられたように感じました。



第3回のグループディスカッション



佐藤洋作さんのよい仕事と仕事づくり

第4回

第4回の講座では協同労働の働き方を発見した労働者協同組合ワーカーズコープセンター事業団東京三多摩山梨事業本部の実践を報告された。多様な業態を運営するなかで、具

体的に労働者協同組合の運営や組織のあり方、協同労働の働き方について鋭く突っ込む質問もあり、労働者協同組合や協同労働を深める機会となった。

【第4回講座感想】

■支援内容の「協同労働」の周知活動の講座に私は参加しているんだなとわかってきました。事業の立ち上げ支援や個別支援を利用することで、思いのある人が多岐にわたる社会貢献や自己実現をしやすくなり、法人格で出発できるのは凄いと思いました。イベントの開催で波が広がるように仲間づくりができ、共同事業も生まれて良く練られたシステムです。視覚資料が多く知っている場もあり、理解しやすかったです。

■報告を通じて「失業対策事業として始めながらも、無借金経営で、全員が経営者としての『当事者意識』を持って事業を展開している意識改革魂こそが共同(協同)労働の本来あるべき姿だ」ということでした。役割分担による人事制度が個別の事務所毎に作成されて、役割と給与が決められていて、出資金も自分自身の2ヶ月分を当初の出資金とは別に出资している組織づくりも初めて知りました。

■国分寺の事例紹介(生活介護事業所あっぷ)の話聞いて、当事者がこんなに頑張らないと、必要最低限な場所すら社会にはないとあらためて思いました。うちには縁あって現在4匹の保護猫が居ますが、目の前の現実と制度のなかで、猫の保護活動をしている人も同じ様な状況です。まったくの個人活動です。

インターネット環境があるおかげで、個と個をつなぐ状況は格段に良くなっていますが、社会にとってよい取り組みが継続するような仕組みがないように感じています。今日の話はまず人手が必要なことばかりです。地域の種々の課題に対して行政とどのような「協同」のかたちがあるのか、勉強が必要だと感じました。

■全貌がつかまなまま数回の講座をへてきて、今回は少し全貌がみえてきてその凄さに感動しました。「補助金・助成金」「寄付金」「事業益」の3本柱で経営していることを知り納得感はありましたが、マネジメント層の皆さんの仕事ぶりがまだわからないので引き続き学ばせていただきたい。



第4回目の講座の様子

第5回

第5回は三鷹駅前に協同労働で立ち上げた「量り売りと地域の台所『野の』」の実践報告と「野の」のシェアキッチン事業の1つである「すみかふえ」の取り組みが報告された。「野の」の存在目的から働くことの議論、「野の」を運営していくためのアドバイスが多くなされ、さながら「野の」の応援団による企画会議がされた様相であった。すみかふえの石毛さんは、2022年度の講座受講生でもあり、受講生から報告者になるなど、参加者の成長を感じる場面にもなった。

【第5回講座感想】

■フードロスやプラスチックゴミへのアクションとして、量り売りという業態をコミュニティづくりや安全な食の提供という考えからシェアキッチンという業態を採っていることが面白いと思いました。また、シェアキッチンが就労支援の場としても機能していることも素晴らしい取り組みだと思います。

「仕事再発見」という意味では事例紹介の中で、これからの仕事について考える時間になり得たと思いますが、なぜ量り売りだったのか、「野の」のスタッフの思いや、引きこもりを経て現在シェアキッチンを運営している石毛さんの思いに自分自身の考えが至らず、理解を深めることができませんでした。

売上や利益の話が出ていましたが、そこから考えたら、量り売りやシェアキッチンにはならないと思います。まず大切にしていきたいことがあり、現実(売上や利益)との折り合いをつけていく中での量り売りやシェアキッチンだったと思うので、質問が売上や利益の話から入ってしまったことは大変残念でした。

「野の」スタッフが大切にしたいことと、「仕事再発見」をしようとしている自身が感じている違和感には重なる部分もあるはずで、そういう話ができる可能性がある場でした。引きこもりだって、今の社会への違和感の表現ですし、この場にいた人で共有しているベースがあったにも関わらず、うまい質問ができず、よい時間をつくる機会を逸したと感じ、反省しています。

■“野の”の事業は純粋に量り売りの事業益とシェアキッチンの事業益だけで切り盛りしている様子なので経営的には苦しい状況が続くものと思われます。

武蔵野市に“MIDOLINO”（みどりの）では、独立創業支援を“MIDOLINO”主宰者が指導料をとって行って付加価値を確保し。独立時の店舗不動産斡旋やコンサル、デザインでもお金をいただき、補助金・助成金も確保して操業されていることを聞いたことがあります。参考にされたら良いのではないかと思います。

■私の発した愚問「すみかふえは評判がよさそうなのになぜ毎日営業しないのか」という事業理念を理解しない世間的な考え（収益とそれを出す労働効率性が第一、それが幸福）

とは違う土台にたって運営している。自分の協同労働に対するイメージはまだ曖昧模糊ですが、お話を聞いてなにか拓けた気がします。

■「地域で働く・生きてゆく」ことに希望を持てるように感じました。皆さんが「野の」に対するアイデアを、次々と提案する軽やかさに驚きました。「すみカフェ」で働くことを生き生きと話す石毛さんの様子を見てると羨ましさを感じています。ただ、私は副業の形で「協同労働」を考えている訳ではないので、収入が得られるかという点を知りたかったです。

■「野の」では、シェアキッチンで経営基盤を作る体制はとても良いと思いました。反面、ベースとなる場所を貸し出してしまうことになると、活動拠点が減るので、外にでるか？時間を拡大するか？の2択にある程度絞らざるを得ないのかと思いました。安定した基盤を確保しつつ、次のステップを整える時期かと思います。この先の戦略がちょっと大変そうですね。

すみかふえでは、風のすみかさんの第二ステップの位置付けで、パン屋さんのルーチンワークから、自立した仕事として経営やマーケティング、販売といった業務の体験版という視点では良い取り組みだと思いました。最終的な社会復帰を目標にするときに、意思を持って行動できる力をつけることが自信につながると思います。

■皆さん堅実に、真面目に取り組んでいる印象を持ちました。「野の」のコンセプトはカッコ良いのでもっとエントランス部分を明るく、入りやすい雰囲気。看板や通りすがりの人が日替わりのお店情報が掲載されているフライヤーがあったら良いと思いました。



第5回講座の様子 「野の」のまどかさん、やすこさん すみかふえの石毛さん

第6回

第6回は、講座最終回のため、今までの講座のまとめと補足説明と「働くこと」と「仕事おこし」のグループに分かれて議論した。その後、2月4日のみたかむさしの協同コミュニティづくりネットワーク設立集会時にこの講座のまとめをどのようにするのかを検討した。この会の内容をもとに、3人の講座生に話していただくことになった。



第6回のグループディスカッション

(2) 2022年度「はたらくこと再発見講座」受講生との後継組織会議

2022年度に開催した「はたらくこと再発見講座」の参加者有志から継続してこの会をもっとほしいという要望があり、2022年2月から2023年の11月まで計7回の後継組織会議を開催した。平均して毎回10人弱が参加する場となった。そのなかで各参加者の近況を報告し、「働くこと」や「三鷹市・武蔵野市」の話題が話された。また参加者個人で、新たに地域活動をし始めた方、文化学習協同ネットワークにボランティアで関わる人、ワーカーズコープセンター事業団の現場に訪問・見学する参加者も生まれた。会議ではシニアの力を活かす計画も提案されたが、その計画を誰がするのかと議論するなかで、なかなかそれを主導する主体が生まれにくい状況もあった。

「民学産公」協働研究事業や三鷹ネットワーク大学まちづくり研究員として、無料でネットワーク大学を使用させていただいたが、来年度以降、研究員を外れることや民学産公事業に参画できないことで、今後は使用料が有料になること。相良も昨年8月から宇都宮に異動することになったために、11月にこの回を終了することにした。

今回、つながった方々には、2月4日開催のみたかむさしの協同コミュニティづくりネットワーク設立集会にも呼びかけ来た参加者もいる。このネットワークに引き続き合流させながら、2022年の受講生ともつながっていく。

(3) 「野の」の周知・発展に資する学習会づくり

1) 1周年記念イベント

10月9日(日)1周年記念イベントを三鷹市民協働センターで開催。40人が参加。内容は、野のメンバー8人から1年の振り返りと今後の展望を皮切りに、「地域で暮らす、地域で働く」をテーマに一瀬清さん(社会福祉法人むうぶ理事長)の記念講演、「働き・つながり・広げる」のテーマで、一瀬さん、佐藤洋作さん(文化学習協同ネットワーク代表)、高橋由紀子さん(野の)の鼎談があり、懇親会を開催した。

一瀬さんや佐藤さんの実践は、三鷹の地域で長年根付きながら、働くこと・学ぶこと・暮らすをつくってきたことから、そのような経験から地域に根付く組織になるために大切

なことを学びたいという趣旨からプログラムをつくった。1周年イベントを通じて、実践を振り返り、「野の」の存在理由や価値を考え、「野の」を周知し、応援団をつくっていく一つのきっかけになったと考えている。



1周年イベントチラシ



全員集合した8人の「野のメンバー」



1周年イベント全体



交流会

8人の「野の」メンバーの「一年の振り返りと展望」

■自分たちで考えて、自分たちで決めること。この協同労働の働き方が広がってほしいと思います。「野の」を地域に開いて、活動の輪を広げて、自分たちの暮らしと自分たちの手で取り戻したい。

■これからどのように生きていこうかと考えていた。そのときに、D I Vストアのように、みんなで考える場所。みんなで働き方を考えることをしたいと思った。そして参加するメンバーにも惹かれた。毎週ミーティングを重ね、決まらないことも多くあったが、地域の方々から支えながら今までやってきた。2年目もどきどきするが、がんばりたい。

■三鷹に知り合いがほとんどいない。協同労働は何かと思いながら、ここにいっているのかと

も感じながら今もあります（笑）。これから地域の子どもの助けになることをしていきたい。
大変なこともいっぱいありますが、地域で活動したいです。

■9歳の娘がいますが、地域の人たちとの関わりに助けられてありがたいと感じています。
そして地域に出ているいろんなことをし始めると楽しくなった。人とのつながりをやってみたいと感じていながら、「野の」に参加しました。協同労働はまだまだわかりませんが、ここでやれることはものすごく幸せなことだと思います。私にとって「野の」のメンバーは希望だと感じています。みんなですれば、何かができるのではないかと感じています。

■コンビニや通販会社で働いたときに大量のごみが出ることを感じ、すごくもったいないと感じた。その思いがあるなかで、地元三鷹で、「野の」のような気持ちのいい場・商売ができるのも幸せだと感じています。協同労働は初めて知り、理想的な働き方だけど、これは大変だなということも感じています。

■協同労働は初めてで、その働き方に馴染めるのかも感じながら、今日の日も迎えることができてよかった。

■「野の」のメンバーで私が一番年上。「野の」を立ち上げるときに、次の時代に私たちは何を残していけるのかと考えた。野のを拠点に、地域の皆さんといい時間を過ごしたい。

■ごま油の伝統製造技術が失われる話を聞いた。生産者の努力だけで文化が継承されないことが多くある。社会でどのようなものを残していくのかという語り合える文化、空間がさびれている。そのようなことを語り合う文化・残していく技術を「野の」でつくりたい。



「野の」1周年イベント冊子（表・裏）



野の1周年イベント冊子(中)

2) 環境活動×協同労働 未来をつくる生き方・働き方

～エコストアパパラギの実践から～

12月17日に武蔵野芸能劇場で20人が集まり、プロカメラマンで環境活動家、神奈川県藤沢市にエコストアパパラギを設立した武本匡弘さんをお呼びして、シンポジウムを開催。武本さんは環境活動を広く周知する「労働者協同組合プラスチックフリー普及協会」も立ち上げている。武本さんの記念講演から、環境活動を推進する協同労働団体の横のつながりとともに、「野の」の今後の運営において多くのヒントをいただく機会となった。



環境活動×協同労働チラシ



全体集合写真



グループディスカッション

武本報告から（一部抜粋）

なぜ労働者協同組合なのか

以前の職場では自分で会社を立ち上げ社長をし、社員は67名いました。主体的に経営に全員が携わることをしたいと考え、自由の森学園のような会社にしたいと思っていました。一人ひとりを生かすことが大事だと考えています。

労働は、人の一生で一番長い時間であり、働くことで人としての成長や幸福を得る。その職場環境は今、どのように変容しているのか。競争原理を会社に持ち込むと、人間がろくなものにならない。競争力によって、人の能力を引き出すという形はとられているが、自分というものがなくなっていくと考えています。能力主義で追い立てられているうちに、社会や地域環境に対して目を向けない人がつくられ、社会の荒廃や環境破壊を増幅させる一方といえるのではないか。

命の尊厳よりも、優先することは何もないと考えている。上の理由以外にも、労働運動にかかわった経験からもあるなかで、エコスタパパラギを始めるときから労働者協同組合を考えていました。

野のメンバーからコメント

「野の」立ち上げ時にパパラギに行ったのを覚えています。すごく希望に満ち溢れてオープンしました。目の前のことで精いっぱい、行き詰っている部分がありますが、お店を開いたことで多くの出会いが生まれました。これから、武本さんの取り組みのように、多くの社会の現状を知り、自分で考え、言葉にして、対話を重ねながら活動をしていきたいと思う。「野の」は駆け出しのひよっこですが、今後ともよろしく願います。

（4）みたかむさしの協同コミュニティづくりネットワーク設立集会

2月4日に三鷹ネットワーク大学を会場にみたかむさしの協同コミュニティづくりネットワーク設立集会を30名の参加で開催した。目的は、三鷹武蔵野地域での協同を軸とした「まなび」と「はたらく」をテーマにした団体・個人を超えたネットワークづくりである。当日は、協同を軸に進める三鷹武蔵野の地域づくりに興味のある方同士の出会いと交

流の機会に目的を置いた。

それに先立ち、どのようなネットワークをつくるのかを5回の準備会で議論をした当日を迎えることにした。

1) 5度にわたる準備会の開催

三鷹・武蔵野地域に在勤・在住をしている方を中心に、多様な思いを持った個人が集まり、7月から5度に渡る本ネットワークの設立準備会を開催しました。出会い、交流するなかで名称・設立趣意書・行動計画、設立集会の件を議論した。議論の過程では、協同労働への考え方、各団体・個人の課題や展望、三鷹・武蔵野地域の地域づくりの現状が多数意見として出され、多様な考え方を盛り込んだ設立趣意書や集会内容にすることにした。



第1回準備会



第3回準備会

準備会メンバー（五十音順）

相良孝雄（労働者協同組合センター事業団）、佐藤洋作（NPO 法人文化学習協同ネットワーク）、田村政司（全国農業協同組合中央会）、高橋薫（NPO 法人文化学習協同ネットワーク）、田嶋康利（日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会）、中野佳裕（立教大学）、量り売りと地域の台所「野の」のメンバー、藤田雅美（みんなの外国人ネットワーク【MINNA】）、扶蕪文重（労働者協同組合センター事業団）、横田砂恵子（労働者協同組合センター事業団）

2) 集会当日の概要（タイムスケジュール・設立趣意書・行動計画）

13:00 会場設営

14:00 開会（司会：高橋薫）

14:00～14:05 開会宣言、本日のタイムスケジュール（高橋薫）

14:05～14:15 ネットワークの趣旨説明、設立経緯（相良孝雄）

14:15～15:15 グループディスカッション（30分×2回）Co.【コーディネーター】

テーマ：参加者自己紹介・活動紹介、本プラットフォームの感想・したいこと。

グループ① 暮らしと環境（Co.量り売りとまちの台所『野の』）

グループ② 地域での学び（Co.文化学習協同ネットワーク）

グループ③ 新たな働き方（Co.ワーカーズコープ東京三多摩山梨事業本部）

- 15：15～15：25 各グループでの交流されたことの報告（3グループ×3分強）
- 15：25～15：40 休憩
- 15：40～16：20 「はたらくこと」再発見講座の学びから
落合聡子さん、杉本直子さん、牛越創さん Co.相良孝雄
- 16：20～16：40 本日参加してのコメント
鈴木理央さん（ワーカーズコレクティブこもれび代表理事）
藤田雅美さん（MINNA）
- 16：40～16：50 閉会挨拶
佐藤 洋作さん（文化学習協同ネットワーク代表理事）
- 16：50～17：00 今後の予定（3月27日）第1回協同コミュニティづくりネット会議
- 17：00 終了

参加者には、準備会メンバーやその関連団体メンバーの他、ネットワーク大学まちづくり研究員、働くこと再発見講座生、ワーカーズコレクティブこもれび、三鷹市議、武蔵野市議等が参加した。



みたかむさしの協同コミュニティづくりネットワーク参加者集合写真

■設立趣意書

ー地域をもっと温かく彩り豊かなものにするためのつながりをつくりたいー

私たちの地域を、より人と人とのつながりを大切にしながら、温かみと彩りのあるものにできないでしょうか。一人ひとりが個別化された地域ではなく、ともに豊かになっていくことを喜び合える関係がひろがる地域にしていけないでしょうか。このような思いから、私たちは、「顔の見える」「手の届く」「配慮できる」距離で、私たちが暮らす地域のことを私たち自身が知り、考え、決め、実行していくための出会いと交流の場をつくりだ

していくことで、地域の課題と向き合い、ひいては社会とも向き合っていきたいと考えました。

私たちがつくる出会いと交流の場は、「まなぶこと」「はたらくこと」を大切にしていきます。「まなぶこと」は、互いに関心に向けあい応答しあいながら、地域や社会の事実を知り、多様な価値観と出会い、自分たちの置かれている状況を多面的に捉え、よりよい生き方を発見していくことです。「はたらくこと」は、「まなぶこと」によって得た「知」を土台に、よりよい生き方に向けてそれぞれのスタンスで社会に働きかけることです。

こうした学び合いや行動によって生み出される人・モノゴト・つながりは、地域で暮らす私たちの共有の財産です。この共有財産をいかし、競争ではなく協同で社会をつくるという価値観が私たちの交流のベースです。

年代や立場を越えたさまざまな人とともにコミュニティをつくることで、私たち一人ひとりが、よりよい暮らし、そして地域を楽しくつくっていく展望をもつことができるようになることを期待しています。

■行動計画

- 三鷹武蔵野を中心とした地域の現状を知り、考え、行動することを通じて、一人ひとりにとって大切な新たな価値と出会い、連携し動き出すことを志向する学習会を開催します。
- 既存の働き方を問い直し、新たな働き方・生き方を探求する学習会、交流会を実施し、協同労働を志向する個人・団体のネットワーク、労働者協同組合の相談・設立支援をします。

3) 集会当日に出された意見

3つの分散会

「学び」

- ・学びの内容と学び方について議論がされた。一方が教える・教わるだけの関係ではなく、教え合う、学びあう視点が大切。学ぶことはやらされるものではなく、やりたいと思うなど、楽しいことが大切。
- ・オンラインの時代にリアルにコミュニケーションをすること。地域は近しい存在であるから、リアルでのコミュニケーションを増やしていきたい。
- ・地域でいろんな活動をしているが、この人（団体）とこの人（団体）がつながったら地域で何か違う仕組みができるのかなと思うことがある。日々自分の生活に精いっぱい、まわりの人とつながり、シェアする時間がない状況がある。地域といっても殺伐とする様子もあるが、時間を生み出して話すことに改めてできたらいい。

「働き方」

対面の重要性がキーワードになっていた。自分が住む地域に誰かがいるが、お互いの様子が見えないし、顔の見える関係、お互いが意見を言い合う関係になっていない。それは働く職場もそうだが、地域住民と関わる際に、対面でのコミュニケーションをとれることが今、とても大切。

「環境・暮らし」

・生きやすい社会をどのように次の世代につないでいくのか。その意味でいろんな人がつながれることの方が大切であることを交流しました。地域には余白がなく、つながりましょうというといひってしまう。自然につながれる場があればいい。お互いの生きやすさを共有できるとつながれる場があればと思う。

・「野の」でやれること、つながれることがあるかを話し合っていた。「野の」で買い物をすることは、暮らしを考えることにもなる。例えば。容器の選択1つをとっても。

また精神障がい者の利用者、介護をしている方の学習会を開きたい話も出た。小商いでは何かやりたい人などの情報を共有する場をつくることも大切なことは話された。



分散会全景



暮らし分散会



学び分散会



働き方分散会

講座受講生報告【講座での学び、今後考えたいこと・行動したいこと】

■昨年度も講座に参加して、今回で二度目の参加となった。前は協同労働との出会いがあったが、夢物語だと思っていた。しかし実際に労働者協同組合の現場にいったことや今回の2回目の講座を受けて、「居心地のいいところで働きたい」「やりがいを感じたい」などのそういう場を求めることをしてもいいことを強く感じたし、そのように考えることも大事にしてもいいと思った。「どう働くのか」を考えることは、「どう生きるのか」であることに講座で気づいた。だからこの問いは持ち続けたい。そのようなことが顔を出して安心して交流できる場が私にとってかけがえのない大切な場だと考えている。普段話せないことを話せることや、居心地よく働ける場をつくることが一番の願いです。

■講座では、「野の」や風のすみかの立ち上げには、多くの人が集まって立ち上がっていました。いきいきと素敵に働いていることがうらやましいと思うし、そういう空間をつくりたいと感じました。自分で仕事をしたいという構想もあります。

フルオンラインで仕事をするなかで、ストレスフルな状態にあります。表情や体の揺れも含めて相手を理解する。人間はコミュニケーションの生きものであり、対面での交流の重要性を感じています。

起業でいえば、住む地域で宅建の資格を活かして部屋の紹介やIT系の仕事をすでにしているので、デジタル人材の養成などでもしたいと考えています。また女性の働き方を深め、それを推進していきたいと思うので、同じようなことを考えている人とも出会いたい。その意味で、今日の集まりもその一つですが、地域で交流する場が多くあることは大切だと考えています。

■久しぶりに多世代の方々とグループセッションで話ができ楽しかった。こういう人たちが三鷹・武蔵野に住んでいることを知れただけでも良かった。私は昔、ミニシアターで働き、そこでは自分のつくった作品について、皆さんで批評する場があった。映画に限らずですが、自分の作品や感じていることをコミュニケーションする、交流が生まれる場は、地域にもっとあってもいいと考えていますし、そのような場が好きな自分はいます。

武蔵野の地に住み着く理由として、宮本常一の文書でも紹介されていましたが、多くの方が合理的・利便的な生活を営む、より多くのことを稼ぐ価値観があると思います。そのなかで、地域社会に住み続ける際に合理的・効率的ではないことも多くあります。そのなかで自分が地域社会とどのようにつながっていくのかを今後、考えていきたいです。



講座で感じたことを報告する参加者



講座報告会の全景

まとめ（準備会の佐藤洋作さんから）

人はやさしさに出会わないとやさしくなれない。人は思いの他、優しい。そのような社会になればと考えている。人を通して自分が好きになる。逆にそういう関係性がズタズタになることが、孤立・孤独になることです。

関係性のなかで人が人になること。それを応援するのは教育だと考えています。この会につなげて考えれば、場・コミュニティに参加しながら、場に力をいただく。そのようなことを通じて相互の関係性を強くすることにつながると考えています。

語ることは自己肯定感が高まりますが、その機会はあまりなく、参加できる社会も少ないです。ライフヒストリーをもとに語る場をつくっていきたい。

地域づくりをする際に、学ぶこと、仕事をつくることは大切で、それを実現するには多様な方とつながり、協同労働で行うのがいい。このネットワークを通じて、ケアと自治が生まれる社会の土壌をつくりたいと思います。

7. 結果

成果である「協同労働を推進するプラットフォームをつくる」ことは、多様な方々の意見が反映された上で達成することができた。設立までに至るプロセスであった講座開催、2022年度の講座受講生との交流、「野の」のイベントなどを着実に開催してきたことが成果につながったと考えている。

これらのプロセスの過程で、協同労働で働いているワーカーズコレクティブACTこもればの鈴木理央代表とお会いするきっかけができた。また「野の」メンバーで、市民協働センター職員の高橋由紀子さんから、「がんばる地域応援プロジェクト」の成果報告会にコーディネーターとして関わらせていただき、多様なつながりが生まれている。

三鷹に在住して11年が経過するなかで、自治会活動で大沢の地域の間人関係が広がり、三鷹ネットワーク大学のまちづくり研究員になった3年前から三鷹市内全域で劇的にネットワークが広がった。これらの既存のつながりからネットワークをつくる土台がつく

られた。

本研究事業では、関係者との日々の関係性の構築と議論のプロセスであった。特に文化学習協同ネットワーク代表の佐藤洋作さんや高橋薫さんとは、まちづくり研究員の2年もあわせて3年間、「協同労働を推進する」ことをテーマに、多様な場で議論し、学習会、事務局会議も開きながら、どのようなネットワークが三鷹・武蔵野に必要なのかを議論しながら、進めてきたことはネットワークを設立する大きな原動力となった。

8、みたかむさしの協同コミュニティづくりネットワークの存在意義と今後

全国に目を向けたときに、現在17道府県と3市で協同労働を推進するネットワークが生まれている。これらのネットワークでは、(1) 協同労働の普及・促進・労働者協同組合の活用のための学習会やフォーラムの開催 (2) 参加者・参加団体どうしの交流や連携 (3) 設立相談や支援、(4) 県・自治体など行政に対する提案や交渉などを基本に取り組んでいる。

みたか・むさしの協同コミュニティづくりネットワークは東京都内で初のネットワークとなった。県単位でネットワークをつくることは、周知やフォーラムなどで都道府県単位で行いやすくなるが、本ネットワークでは顔の見える範囲、実際に地域づくりに反映しやすい単位として、あえて自治体を基礎単位としたネットワークづくりに注力した。その意味で本ネットワークが自治体単位で協同労働を推進する上で、どのようなことができるのかのモデルケースになる可能性を秘めている。



全国の協同労働推進ネットワーク (2024年2月15日現在) 田嶋康利労協連専務理事作成

協同労働の普及・促進も大きな一つの活動目標にしている、みたかむさしの協同コミュ

ニティづくりネットワークであるが、設立したこれからが本格的始動のステージに入る。

設立集會に集まった方々と信頼関係を築きながら、個人や所属する団体の課題や展望と三鷹武蔵野で起きている地域課題を掛け合わせながら、協同を軸に何ができるのかを「学ぶ」と「はたらく」視点から深堀をしていく。

すでに準備会のメンバーからは、学習塾を協同労働・労働者協同組合で立ち上げる構想や、自治体の空き地・空き家の課題について、知恵を寄せ集めて何ができるのかを考えようという動きも出始めている。

これらのように個人の問題を個人だけの問題にせず、つながった個人・団体ともつながりながら、三鷹で協同労働の周知や活動を広げていき、協同の文化が広がり、自治が息づくまちづくりを推進していきたい。

最後に、積み残した課題を提示し報告書のまとめに代えたい。

昨年度の成果報告会で「日本社会ではなかなか労働者が声をあげるという文化が浸透していないことから、こういった活動を行うことは価値がある。今後は、活動の内容をよりわかりやすく伝えることに努め、組織の透明性を高めることで興味を持つ人が増えるのではないか」とのコメントをいただいた。

これは今年度も実践してきた中身ではあるが継続した課題でもある。引き続き、多様な方々と出会うなかで、協同労働の魅力を「野の」のように地域の実践からわかりやすく伝え、実際に現場に見学していただく機会をつくり交流するなかで、協同労働が地域の文化として実装化していく努力を積み重ねていく。